

# クジラやウミガメの漂着時の対応

クジラやウミガメといった大型の海産生物が漂着するといった事例を稀に聞きます。頻繁にあることではなく、現場としてもどのように対応したら良いのかわからない部分が多かったため、今回はその対処方法をまとめてみました。

## 1 管理者に連絡

漂着した生物が生きている場合でも既に死んでしまっている場合でも、漂着した場所の管理者に連絡をします。漁港や港湾区域の管理者は市町または県となり、漁港や港湾区域外は市町になるケースが多いと思います。表1に伊豆地区(熱海市～伊豆市沿岸)の漁港と港湾の管理者をまとめました。なお、クジラやウミガメの場合、水族館が情報を集めていることもありますので、最寄りに水族館がある場合は可能であれば連絡を入れます。

表1 各港の管理者や管理部署

港名	漁港・港湾	所在地	管理者・管理部署	港名	漁港・港湾	所在地	管理者・管理部署
初島	漁港	熱海市	熱海市観光経済課	手石	港湾	南伊豆町	県下田土木事務所
熱海	港湾	熱海市	県熱海土木事務所	小稲	漁港	南伊豆町	南伊豆町地域整備課
網代	漁港	熱海市	県熱海土木事務所	下流	漁港	南伊豆町	南伊豆町地域整備課
宇佐美	漁港	伊東市	伊東市産業課	大瀬	漁港	南伊豆町	南伊豆町地域整備課
伊東	港湾	伊東市	県熱海土木事務所	石廊崎	漁港	南伊豆町	南伊豆町地域整備課
富士	漁港	伊東市	伊東市産業課	三坂	漁港	南伊豆町	南伊豆町地域整備課
八幡野	漁港	伊東市	伊東市産業課	伊浜	漁港	南伊豆町	南伊豆町地域整備課
赤沢	漁港	伊東市	伊東市産業課	雲見	漁港	松崎町	松崎町産業建設課
大川	漁港	東伊豆町	東伊豆町農林水産課	石部	漁港	松崎町	松崎町産業建設課
北川	漁港	東伊豆町	東伊豆町農林水産課	岩地	漁港	松崎町	松崎町産業建設課
白田	漁港	東伊豆町	東伊豆町農林水産課	松崎	港湾	松崎町	県下田土木事務所
稲取	漁港	東伊豆町	県下田土木事務所	仁科	漁港	西伊豆町	西伊豆町産業建設課
下河津	漁港	河津町	河津町産業振興課	田子	漁港	西伊豆町	西伊豆町産業建設課
白浜	漁港	下田市	下田市産業振興課	安良里	漁港	西伊豆町	西伊豆町産業建設課
外浦	漁港	下田市	下田市産業振興課	宇久須	港湾	西伊豆町	県下田土木事務所
須崎	漁港	下田市	下田市産業振興課	小下田	漁港	伊豆市	伊豆市建設課
下田	港湾	下田市	県下田土木事務所	八木沢	漁港	伊豆市	伊豆市建設課
吉佐美	漁港	下田市	下田市産業振興課	土肥	港湾	伊豆市	県沼津土木事務所
田牛	漁港	下田市	下田市産業振興課				

\* 県港湾企画課、漁港管理課のHPを基に作成 (R3年8月)

管理部署が変更している可能性もあります

川奈港は伊東港の一部として管理されています

## 2 放流または一般廃棄物として処理

対応は基本的には管理者が行います。漂着している生物が生きている場合は放流、既に死んでいる場合は一般廃棄物として処理が基本です。場合によっては埋却することもあります。伊豆地域は「富士箱根伊豆国立公園」に指定されており、国立公園内への

埋却には県自然保護課を通して、もしくは直接環境省への連絡が必要になります。また、令和3年度より（一財）鯨類研究所と（一社）日本水族館協会が水産庁の委託を受けて寄鯨調査を行っており<sup>3)</sup>、ヒゲクジラ類やマッコウクジラ、ツチクジラといった種類の場合にはこれらの団体と協力をしながら放流や処理を行うこともあるかと思います。

### 3 事後報告

放流もしくは処理した生物がクジラやイルカ、ヒメウミガメ（卵を含む）、オサガメ（卵を含む）、ジュゴン（静岡県では無いと思いますが）の場合、県水産資源課を通して水産庁に報告し、アカウミガメの場合は県自然保護課に報告をします。

#### 参考：ウミガメやクジラ・イルカの種類

日本近海で目にするウミガメの多くはアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの3種で見分け方はウミガメ保護ハンドブック<sup>2)</sup>によると、図のとおりです。この3種以外で日本周辺に来遊するウミガメがヒメウミガメとオサガメで表2の特徴を持っています。

なお、クジラやイルカの種類は多いため本稿では記載しませんが、鯨類座礁対処マニュアル<sup>1)</sup>の14～15ページに記載があります。

アカウミガメ	アオウミガメ	タイマイ
第1肋甲板と頂甲板が接する 	第1肋甲板と頂甲板は第1椎甲板で隔てられる 	第1椎甲板で隔てられる 第1肋甲板と頂甲板は 
後肢付近で甲らの縁が凹む 	甲らの縁は滑らか 	甲らの縁はノコギリ状 
甲らに付着生物が られることが多い 	甲らは滑らかで光沢があり鱗板に凹凸線 	甲らの鱗板は瓦のように前後に重なる 
頭が大きい 前窩鱗板は4、5枚 	クチバシが鋭い 前窩鱗板は2枚 	クチバシが鋭い 前窩鱗板は4枚 

図 ウミガメ3種の見分け方

表2 ウミガメ5種の見分け方

種名	特徴	成体の甲らの 大きさ (cm)
アカウミガメ	頭が大きく、 背甲に付着生物が多い	70～100
アオウミガメ	頭が丸く小さく、 背甲に付着生物が少ない	80～110
タイマイ	くちばしが鋭くとがり、 背甲の鱗板は前後に重なる	60～80
ヒメウミガメ	他の種よりも背甲の鱗板が多く、 オリーブ色を呈する	60～70
オサガメ	硬い甲らを持たず、 背中には縦に7本の隆起が走る	130～160

\* 図はウミガメ保護ハンドブックより転載、表は同ハンドブックを基に作成

#### 参考資料

- 1) 水産庁：鯨類の座礁対処マニュアル  
<https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/bycatch.html>
- 2) 環境省：ウミガメ保護ハンドブック  
<http://www.env.go.jp/nature/kisho/guideline/umigame.html>
- 3) (一財) 日本鯨類研究所：寄鯨調査について  
<https://www.icrwhale.org/2021yorikujira.html>

(高田伸二)